

科目名 Course Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
請求実務演習Ⅲ (A・Bクラス) Medicai Coding Ⅲ		1年	後期	別途、時間割参照
単位数	授業の形態	授業の性格		履修上の制限
2単位	演習	選択	(請求実務演習Ⅰ・Ⅱ履修者)	メディカルマーク検定必修科目
当該科目の理解を促すために受講しておくことが望まれる科目				
医療秘書演習Ⅰ				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
医療情報処理演習				
担当者に関する情報				
氏名	研究室の場所	オフィスアワー		電話番号・メールアドレス
古川 貴子	講義棟 2階	授業中に指示します		授業中に指示します
授業の概要				
診療報酬(医療費)の仕組みや算定方法について、請求実務演習Ⅰ・Ⅱで触れられなかった内容を中心に ①診療報酬点数②診療録(カルテ)③診療報酬請求事務④診療報酬明細書(レセプト)の4つの事項を主たる授業内容として 制度の理解とその運用についての習得を図る。また、12月に受験する検定対策も行う。				
授業の目標				
①診療録(カルテ)の専門用語を説明できるようにする。 ②外来と入院の診療報酬明細書の点検が正確にできるようにする。 ③医療事務技能審査試験に合格できるようにする。				
授業の方法				
演習問題の事例を検討しながら、正確な請求事務と先進医療の理解を図る。				
学習の成果(学習成果)				
①医療保険制度に基づき診療報酬明細書(レセプト)を点検することができる。 ②医療事務技能審査試験に合格することができる。				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	外来カルテ点検及び事例検討(内科)①			
第2回目	外来カルテ点検及び事例検討(内科)②			
第3回目	外来カルテ点検及び事例検討(外科)①			
第4回目	外来カルテ点検及び事例検討(外科)②			
第5回目	外来カルテ点検及び事例検討(小児科)①			
第6回目	外来カルテ点検及び事例検討(小児科)②		(小テストⅠ)	
第7回目	外来カルテ点検及び事例検討(耳鼻咽喉科)①			
第8回目	外来カルテ点検及び事例検討(耳鼻咽喉科)②			
第9回目	外来カルテ点検及び事例検討(眼科)①			
第10回目	外来カルテ点検及び事例検討(眼科)②			
第11回目	外来カルテ点検及び事例検討(整形外科)①			
第12回目	外来カルテ点検及び事例検討(整形外科)②			

第13回目	外来カルテ点検及び事例検討（消火器内科）①	
第14回目	外来カルテ点検及び事例検討（消火器内科）②	（小テスト II）
第15回目	入院サマリー点検及び事例検討（内科）①	
第16回目	入院サマリー点検及び事例検討（内科）②	
第17回目	入院サマリー点検及び事例検討（外科）①	
第18回目	入院サマリー点検及び事例検討（外科）②	
第19回目	入院サマリー点検及び事例検討（小児科）①	
第20回目	入院サマリー点検及び事例検討（小児科）②	
第21回目	入院サマリー点検及び事例検討（産婦人科）①	
第22回目	入院サマリー点検及び事例検討（産婦人科）②	
第23回目	公費医療制度のカルテ点検及び事例検討 ①（生活保護法等）	
第24回目	公費医療制度のカルテ点検及び事例検討 ②（感染症法等）	（小テスト III）
第25回目	請求業務の実際 ①（診療所・外来からの請求の流れ）	
第26回目	請求実務の実際 ②（診療所・入院からの請求の流れ）	
第27回目	請求実務の実際 ③（病院・外来からの請求の流れ）	
第28回目	請求実務の実際 ④（病院・入院からの請求の流れ）	
第29回目	請求実務の実際 ⑤（救急外来からの請求の流れ）	
第30回目	請求実務の実際 ⑥（特定機能病院・入院）	
事前・事後学習	ITや図書館を活用して、授業で不明であった点は必ず次回授業までに調べておくこと。また、科目担当者に質問に行くこと。	
成績評価の方法と基準		
評価の領域	割合	評価の基準
授業参加態度	20%	出された課題に集中して取り組んでいる。不明な点があれば積極的に質問している。
レポート		
調査報告書		
小テスト	20%	授業の進捗に合わせて随時確認テストを行い、理解度に応じて評価する。
試験	40%	授業の到達目標に掲げた項目の理解度に応じて評価する。
発表内容（態度含む）		
その他	20%	検定の合否で加点する。
教科書と参考図書		
医療事務医科テキスト1～4（ニチイ学館） 医療事務医科スタディブック1（ニチイ学館） 医療事務医科ハンドブック（ニチイ学館） 技能審査問題集（ニチイ学館） 診療点数早見表（医学通信社）		
履修上の留意点・ルール		
●実務経験（職種：病院総合職・医療事務 職歴：通算6年） メディカルマークを受験する場合は必ず履修すること。電卓を必ず用意すること。		